



Title	投票者の政治情報の処理に関する分析
Author(s)	李, 利範
Citation	大阪大学, 1999, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/41304
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、 ＜a href="https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed">https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed >大阪大学の博士論文について <a> をご参照ください。

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

氏 名	李 利 範
博士の専攻分野の名称	博 士 (国際公共政策)
学 位 記 番 号	第 1 4 7 7 4 号
学 位 授 与 年 月 日	平成 11 年 3 月 25 日
学 位 授 与 の 要 件	学位規則第 4 条第 1 項該当 国際公共政策研究科比較公共政策専攻
学 位 論 文 名	投票者の政治情報の処理に関する分析
論 文 審 査 委 員	(主査) 教 授 米 原 謙 (副査) 教 授 林 敏彦 教 授 伊 藤 公一

論 文 内 容 の 要 旨

投票者の政治情報や候補者の評価プロセスには投票者の動機要因、政治知識の水準、感情要因という心理的要因が強く影響している。これらの影響の度合によって、投票者が採用している情報プロセスのパターンが異なるとともに、政治情報についての投票者の認識や判断能力の差も生じてくる。このような能力の差から投票者の政治的反応や判断の違いを説明することが可能であり、多様な投票者の政治的選択についての理解を深めるための投票者の類型を作ることも可能となる。

投票者の政治知識の水準は、投票者の政治的判断能力に最も強く影響している。この水準はマスコミの政治情報に長く接触することや教育レベルには直接つながっていない。政治知識の水準には政治への関心が最も強く関わっている。政治についてのポジティブな感情は、投票者の政治的知識のレベルや動機要因の強弱にかかわらず強く影響している。ネガティブな感情の働きは政治的知識のレベルによって異なっており、複雑な動きを見せているが、おおむね投票者の政治への関与に否定的な役割を演じている。またネガティブな感情は、関連する政治情報についての否定的反応を起こしやすく、政治情報の評価プロセスが正常に働くことを妨げている。政治的関心は、投票者の政治への関与のすべてに関わっており、投票者の政治的判断能力を高めるのに最も重要な心理的要件である。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本論文は、日本人の投票行動分析の一環として、投票者が候補者や政治的事実に関する情報をどのように評価、処理しているかについての分析モデルを提示し、さらにそのモデルによる実証分析によって投票者の類型を提示したものである。

論文の内容は以下のとおりである。まず第 1 章では、投票行動分析は、伝統的政治学のアプローチ、公共選択的アプローチ、社会心理学的アプローチの 3 種があることが述べられ、第 2 章では、主として公共選択的アプローチの特徴が分析されている。そして伝統的政治学や公共選択的アプローチでは、投票者の動機要因がブラックボックスになっていると指摘する。第 3 章では、投票行動の前提となる認知構造について、社会心理学のふたつのモデルが紹介され、政治的洗練 (political sophistication) の決定要因として政治的知識の量と情報の統合・組織化能力の重要性が指摘

される。第4章では、投票者の政治情報の処理に影響を与える要因として、動機、認知、感情の三つが指摘され、相互の関係が考察される。第5章では、以上の理論的考察に基づいて実証分析が行われている。利用されたデータは、JES (Japanese Election Study) の1983年参議院選挙および同年の衆議院総選挙、JEDS 96の96年総選挙、そして著者自身が学部学生を対象に行なった調査である。第6章では、以上の結果に基づいて投票者を、専門家、戦略家、情緒に流れ易い者、無関心者の四つに類型化している。そしてそれぞれの投票者について政治的知識、感情要因、主体的認知能力、動機、の四つの要因における特徴を指摘している。

以上の内容によってわかるように、本論文は政治学、社会学、心理学の三つの領域にわたるものである。また著者がテーマとした社会心理学的アプローチによる投票行動分析は、日本ではほとんど未開拓な分野である。著者は広い分野にわたる膨大な文献を渉猟して、これを的確に紹介し、さらに時間と労力を要するデータ分析に基づいて独自のモデルを提示しており、その学問的力量は高く評価される。

以上によって、李利範氏の論文は博士（国際公共政策）の資格を満たすものと判定された。